

問合せ先

岩見沢市教育委員会指導室

電話：0126-35-5127

担当者：主査 池津 卓弥

第1回 岩見沢型授業研究協議会の開催

【日時】 令和8年4月24日(金) 午後14時30分～午後16時30分

【会場】 岩見沢市教育研究所(緑が丘2丁目34-1 北海道教育大学キャンパス内)

【内容】 岩見沢市が推進する教育の実現に向けた中核となる教職員を育成するとともに、自校の校内研修の活性化を図る

【参加対象】 市内全小・中・義務教育学校の研修担当者（悉皆）
市内全小・中・義務教育学校の授業イノベーター（悉皆）
市内全小・中・義務教育学校の管理職（任意）

【参加人数(予定)】 50人

【その他】 本協議会は、「岩見沢市教育改革ビジョン 2026-2027」に基づき、「岩見沢型授業」を市内全校に浸透させるため、その実現に向けた核となる教職員を育成する協議会である。

「授業イノベーター」とは、各校で率先して「岩見沢型授業」を実践する教員であり、教育委員会職員によるマンツーマン支援を受けるトップランナーである。

「イノベーター」には「イノベーター証」を発行し、トップランナーとしての自覚を促している。

第1回の本協議会では、主に教育委員会職員による「岩見沢型授業」に込められた想いを伝え、市内全校が同じ方向をみて授業の質的転換を図ることを目指している。

令和8年4月15日

市内小・中・義務教育学校 校長・教頭 様

岩見沢市立教育研究所
所長 砂川 昌之

令和8年度第1回岩見沢型授業研究協議会のご案内

春暖の候、貴職におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

また、日頃から当研究所の事業推進に当たり、ご理解・ご協力に感謝申し上げます。

さて、「第1回岩見沢型授業研究協議会」を次のとおり実施いたします。

本協議会は、岩見沢市が推進する教育の実現に向けた中核となる教職員を育成するとともに、自校の校内研修の活性化を図ることを目的とします。

つきましては、何かとお忙しい時期と存じますが、協議会出席対象者への特段のご配慮をお願いいたします。

記

1 日時 令和8年4月24日（金） 14:30~16:00（受付 14:00~）

2 会場 岩見沢市立教育研究所（小運動場）
※駐車場に限りがありますので、乗り合わせをお願いします。

3 日程

14:00	14:30	15:10	15:15	15:55	16:00
受付	説明 (指導室・所員等)	休憩	グループ協議 (中央・東・西・南・北)	まとめ (指導室)	閉会

4 参加対象者 教育研究所 所員（担当統括マネージャー）
研究員（各校の学校研究担当者）
専門員（各校の授業イノベーター）

5 持ち物等

今年度の自校の校内研修計画等

※ 各グループ（中央・東・西・南・北）の人数+2部をご持参ください。特に様式等は問いません。

指導室からのスライド資料

※ 後日、指導室から各校に送付します。

6 その他

出席者は、4月20日（月）までPlantを通じて申し込んでください（R8 岩教研 003）

（現時点で旧所属のままになっている方は「申し送り事項」の欄に新所属校を記入してください）

不明な点については、教育研究所（担当 廣瀬）までお問い合わせください。

（Tel 22-4412）

北海道 岩見沢市
学校教育改革ビジョン

2026-2027

岩見沢市は、子どもたちの未来を支える教育を推進する

2007年にアメリカやカナダ、イタリア、フランスで生まれた子ども半数は
104歳まで生きると予測されています。

日本の子どもに至っては、107歳まで生きる確率が50%あります。

「人生100年時代」といわれる長寿社会は、これまでと異なり

学び直しやスキルの再構築をしながら、様々なキャリアを経験していく生き方が必要になります。

このような時代に求められる教育は、同列に「同じこと」「同じ方法」で学ぶのではなく

子どもが自己の特性や個性を活かし、主体的に学び続ける力を育むことです。

そのために、「学びの動機づけ」をアップデートし

「学ぶ楽しさ」や「わかることの喜び」を実感できる教育にしたい。

失敗してもいい、間違ってもいい、だけど挫けず、学びを自分のものとする子どもたちを育てたい。

岩見沢市は、学校教育の中で「学ぶ楽しさ」と「伸びる喜び」を育み

子どもたちの未来を支える教育を本気で目指します。



北海道 岩見沢市 学校教育スローガン

キミがHERO

～「学ぶ楽しさ」と「伸びる喜び」を実感できる学校教育～

子どもが主人公

教師が主人公

学校が主人公

学びを自分事とする教育

Project 1

校内研修の充実

- ・授業の質的転換
- ・学ぶ楽しさを実感する授業

Project 3

授業時数特例校制度

- ・教育課程の裁量権(カリキュラムマネジメント)
- ・子どもの資質・能力を伸ばす時間の充実

4つのProjectで「キミがHERO」の教育を行います

Project 2

岩見沢型ピア・サポート

- ・子どもが安心して学ぶことができる学習集団づくり
- ・MLAの活動を学習活動に取り入れていく

Project 4

コミュニティ・エリア構想

- ・エリア内における小中の連携強化
- ・学校だけではなく、社会総がかりで子どもを育てる
- ・地域との結びつきの強化

Project I 校内研修の充実

子どもの学校生活の大半は授業です。そうであるならば、授業は、単に知識を教えるだけでなく、子どもたち一人一人の可能性を開花させ、未来を切り拓く力を育成することが不可欠です。

そのため、授業においては、誰一人取り残すことなく、子どもに「楽しさ」「達成感」「自己効力感」を持たせ、自己の成長を実感できるようにしなければなりません。

それは、個人の教員の力量によって左右されるものではなく、学校として一体感と計画性の校内研修を実施することが大切です。



「学ぶ楽しさ」と「伸びる喜び」を得るためには

授業の質的転換が必要

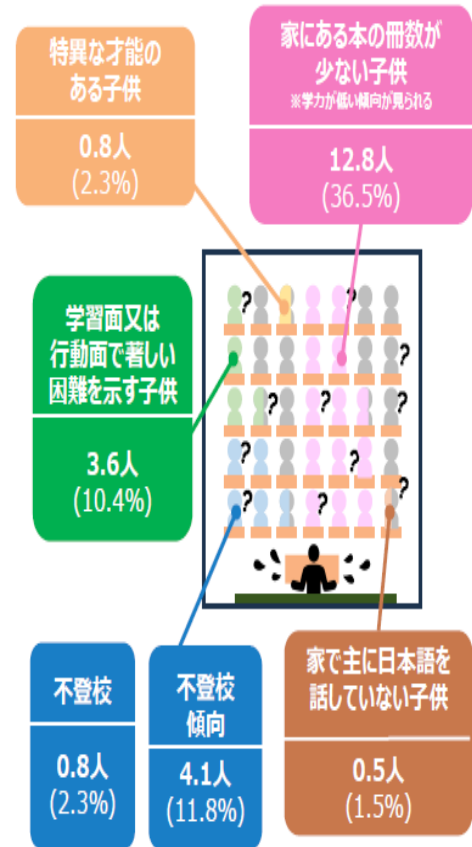


Project I 校内研修の充実

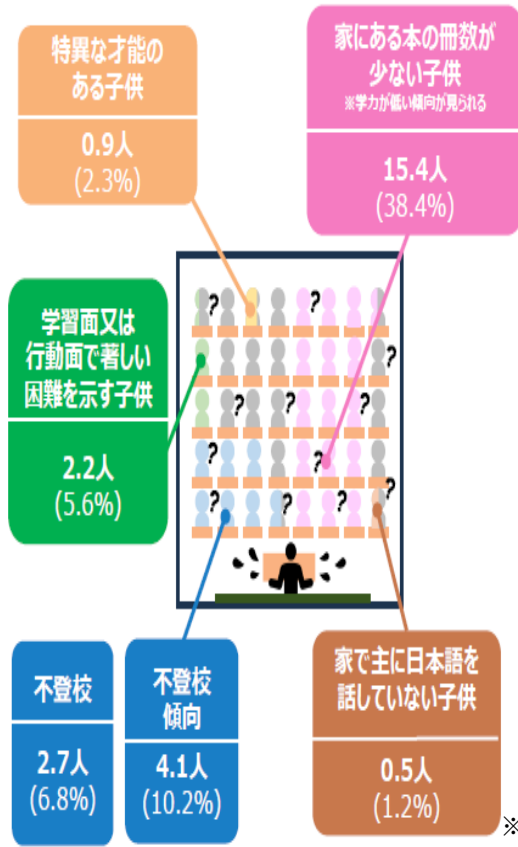
なぜ、質的転換が必要か？

どの学校でも、多様な個性や特性、背景を持つ子どもが在籍している実態が顕在化。多様性を包摂し、一人一人の意欲を高め、可能性を開花させる教育の実現が喫緊の課題

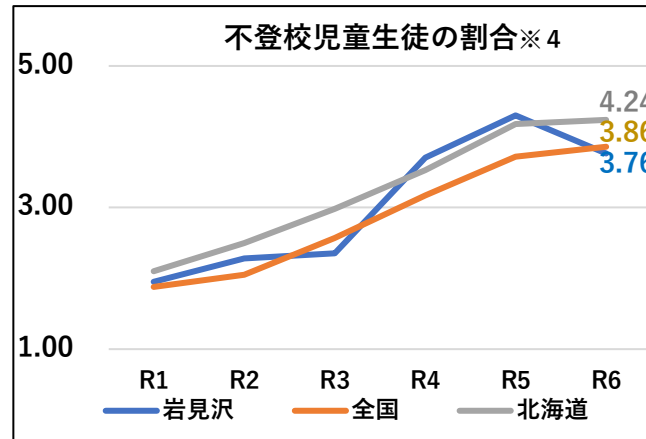
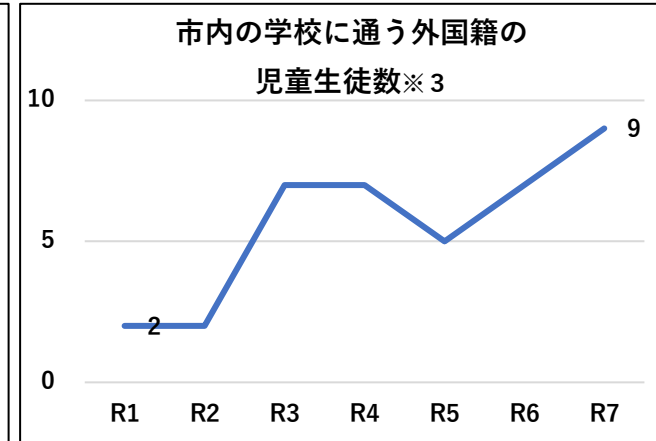
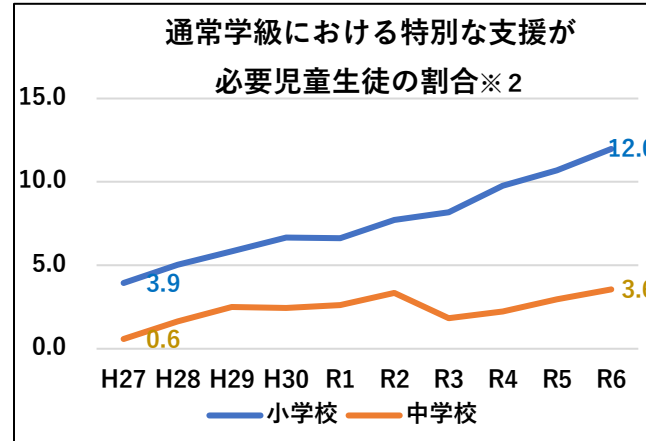
小学校 (35人学級)



中学校 (40人学級)



岩見沢市も決して例外ではない



学ぶ意義を十分に見いだせない子、不登校や特別な支援の対象となる子、外国籍の子、特異な才能のある子への支援の充実が課題

※1 令和8年1月 教育課程部会総則・評価特別部会 (文科省)

※2 岩見沢市特別支援教育推進 (市教委)

※3 岩見沢市学齢簿 (市教委)

※4 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査 (文科省)

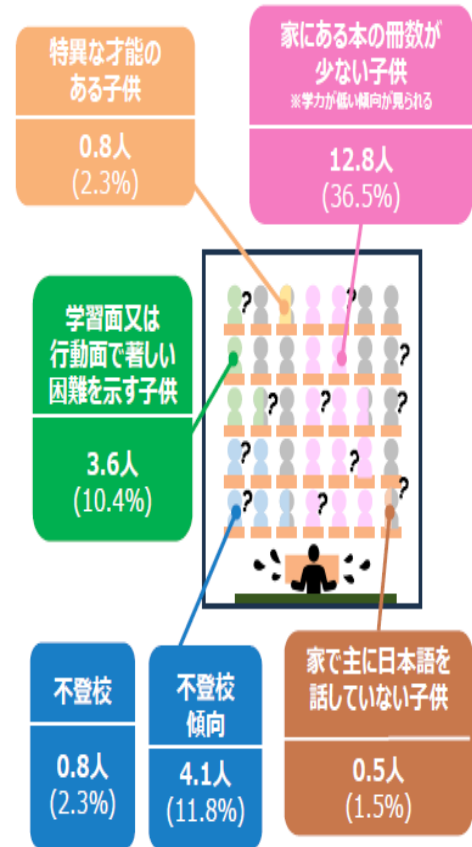


Project I 校内研修の充実

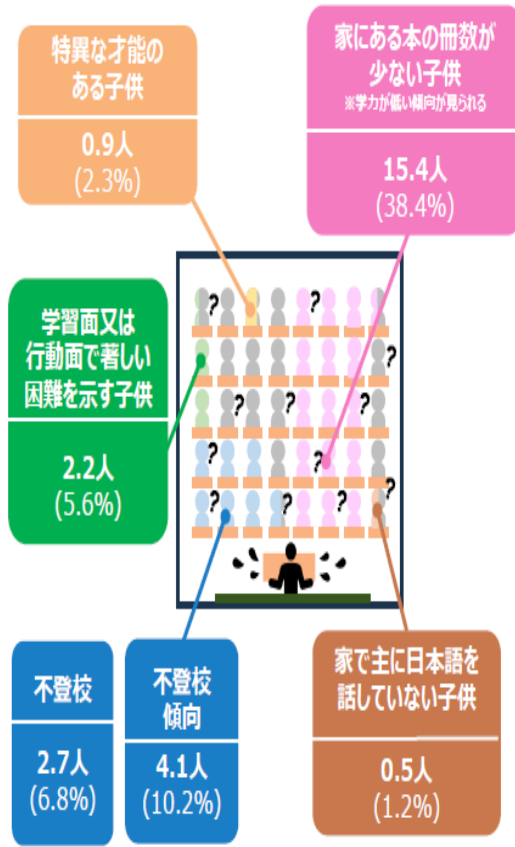
なぜ、質的転換が必要か？

どの学校でも、多様な個性や特性、背景を持つ子どもが在籍している実態が顕在化。多様性を包摂し、一人一人の意欲を高め、可能性を開花させる教育の実現が喫緊の課題

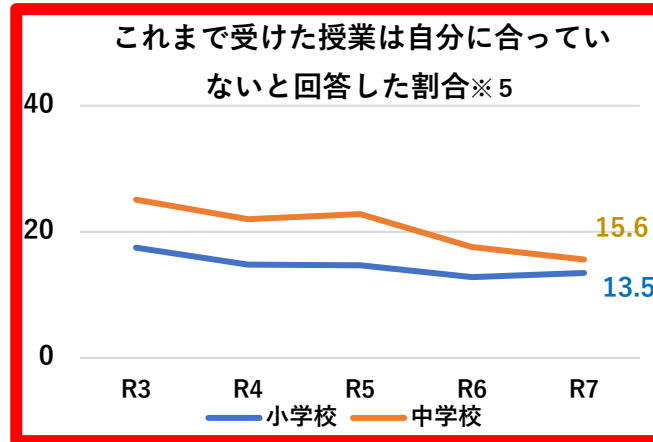
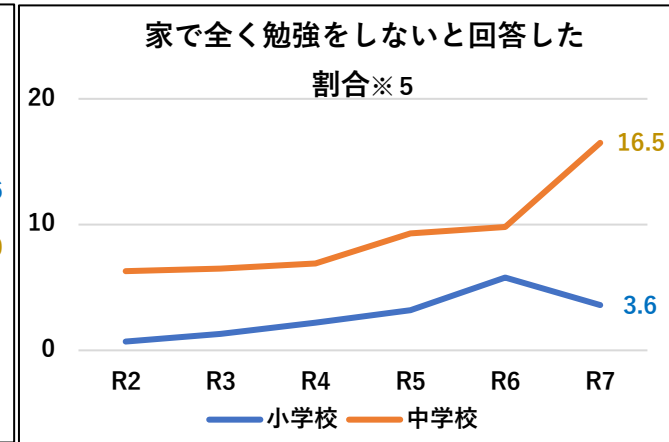
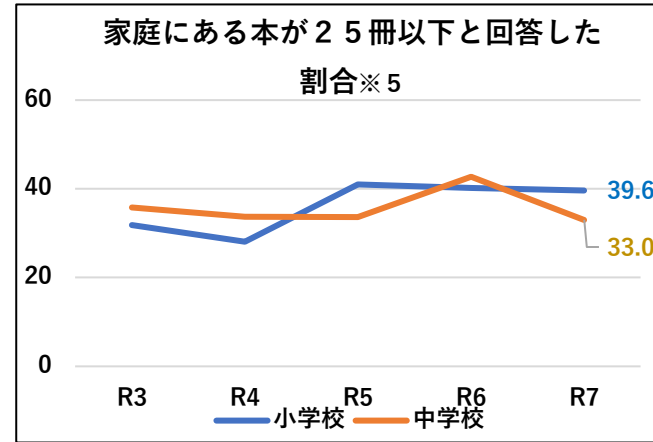
小学校 (35人学級)



中学校 (40人学級)



岩見沢市も決して例外ではない



学ぶ意義を十分に見いだせない子、不登校や特別な支援の対象となる子、外国籍の子、特異な才能のある子への支援の充実が課題



※5 全国学力・学習状況調査における児童生徒質問調査 (文科省)

Project I 校内研修の充実

教育の最前線は、とりもなおさず授業です。日々の授業の中に、子どもたちの未来があります。

授業の質的転換

学ぶことへの納得

・教師が「何を教えるか」、子どもが「なぜ学ぶのか」を自分の言葉で表現できる授業への転換

学びの動機づけのアップデート

・教師の「教えたいたい」を子どもの「学びたい」に変える仕掛けがある授業への転換

Let's型から Can型へ

・身に付けるべき資質・能力を明確にした授業への転換

自己決定

・子どもが自分に合った課題や学び方を決められる授業への転換

振り返り

・子どもが自身の学び方をメタ認知・可視化できる授業への転換

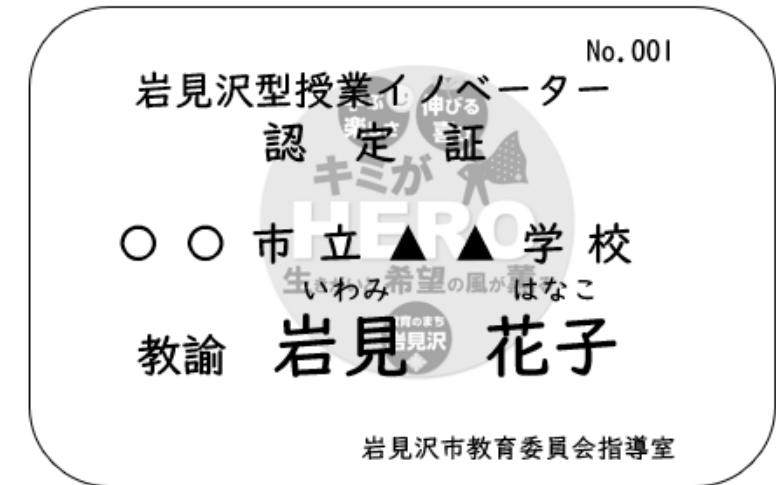


Project I 校内研修の充実

教育の最前線は、とりもなおさず授業です。日々の授業の中に、子どもたちの未来があります。

市教委の伴走支援

- 「岩見沢型授業イノベーター※6」へのマンツーマン支援
 - ・各校の「岩見沢市 授業イノベーター」と指導室職員をマッチング
 - ・コーチングによる授業支援
 - ・失敗を許容する授業の実践
- 教育研究所における研修機会の充実
 - ・管理職、主任層、若手など、キャリアステージに応じた研修
 - ・ベテラン教師がこれまで蓄積してきた引き出しを若手に伝授
 - ・研修担当者協議会の開催
 - ・授業実践の交流機会を拡充



※6 指導室主査及び教育研究所所員からマンツーマン支援を受ける教員(各校から複数名)

Project 2 岩見沢型ピア・サポート

授業の質を高め、よりよく学ぶためには、自分らしさを発揮し、互いに認め合い、支え合える風土が不可欠です。
そのため、すべての子どもたちにとって、温かく安心できる人間関係づくりを通して「支持的・親和的な学習集団」「個を育てる共同体」を構築することが大切です。



「学ぶ楽しさ」と「伸びる喜び」を得るためには

心理的安全性が確保された学習集団が必要



Project 2 岩見沢型ピア・サポート

■ 岩見沢市ピア・サポート研修の開催及び研修内容の確実な還元

- ・令和8年度も3期に分けて、年10日間の研修会を実施
- ・研修会のオンライン及びオンデマンド配信
- ・講師による学校コンサルティングの運営

■ 2年に1度、全校でMLAに関わるプチ授業の公開

- ・すべての学校が公開し、教員が1回以上の参加

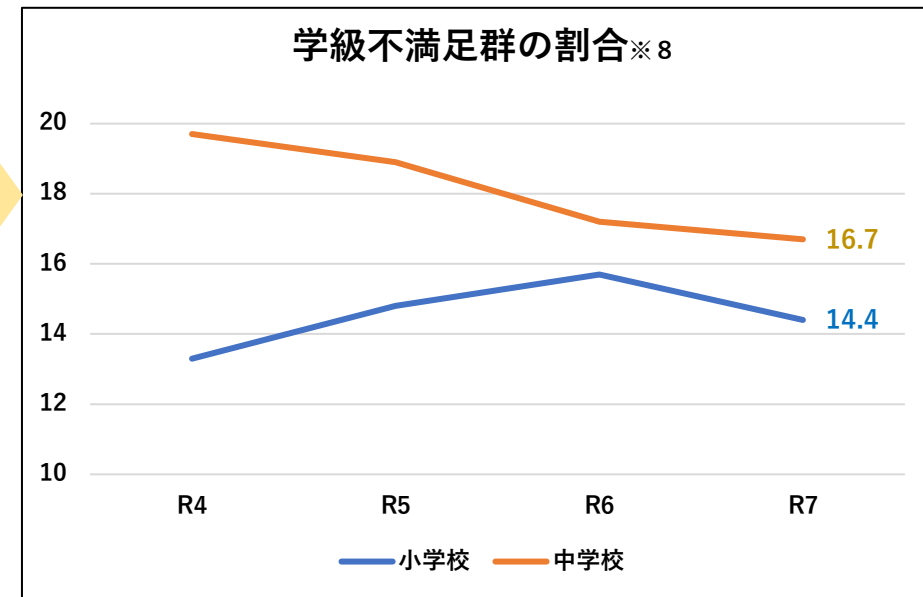
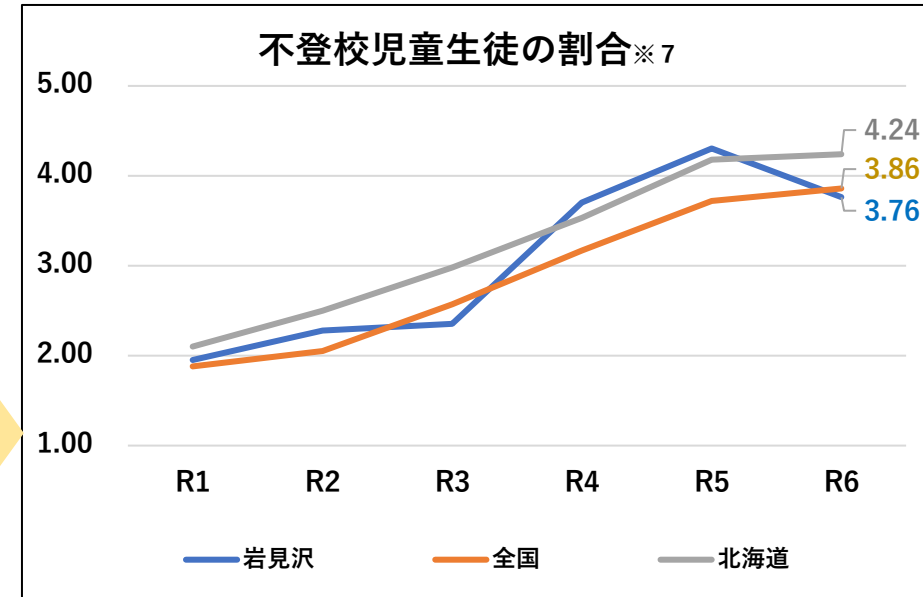
■ 教育研究所部会による調査・研究・発信

- ・ピア・サポート担当者（岩見沢型ピア・サポートイノベーター）

協議会の開催

- ・Googleドライブ及びロイロノートへの情報共有

成果の兆しの現れ



※7 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査（文科省）

※8 hyper-QU（市教委）

Project 2 岩見沢型ピア・サポート

<確認> 岩見沢型ピア・サポートと包括的生徒指導 (MLA) の関係

【MLAのねらい】

すべての生徒を対象に、社会性や感情のコントロール、問題解決能力等を育成するために、様々なプログラムを組み合わせることで成長を多角的にサポートする。

【岩見沢型ピア・サポートのねらい】

MLAの手法を用いて、子どもたちが安心して学ぶことができる学習集団づくりを構築する。

岩見沢型ピア・サポート定義

MLAの理論とスキルを学習活動の場面に生かすこと



Project 3 授業時数特例校制度

授業において、子どもたち一人一人の可能性を開花させ、未来を切り拓く力の育成を図るのであるならば、質の高い教育課程を整えることが不可欠です。

そのためには、多様な個性や特性、背景を有する子どもの「深い学び」を実現するため、授業時数特例校制度を活用し、学習内容の構造化・精選化（網羅的な授業からの脱却）を図り、生み出した時間を子どもたちにとって必要な教科に充足する。

学校は教育課程の裁量権を活かし、柔軟なカリキュラムマネジメントを行うことが大切です。



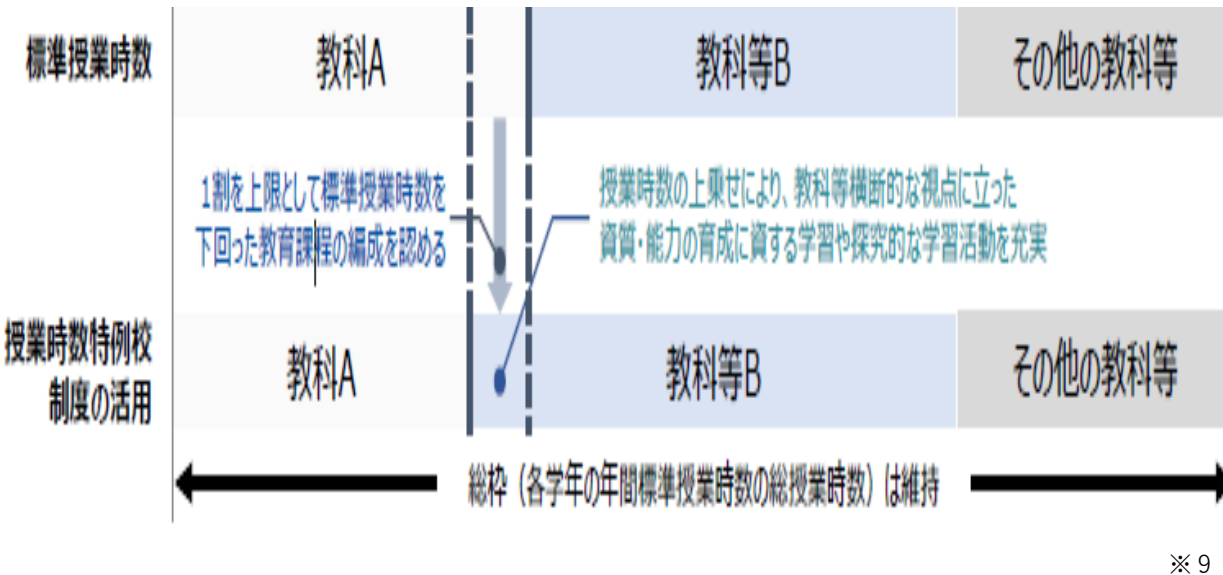
「学ぶ楽しさ」と「伸びる喜び」を得るためには

子どもの実態を踏まえた教育課程の編成が必要



Project 3 授業時数特例校制度

授業時数特例校制度の考え



学力各教科正答率 (%)								
	令和5年度		令和4年度		令和3年度		令和元年度	
	国語科	算数科	国語科	算数科	国語科	算数科	国語科	算数科
研究開発学校 (15校)	74.3	72.5	73.7	72	73.2	77	71.2	72.8
全国平均	67.2	62.5	69	67	64.7	63.8	63.8	66.6
都平均	69	67	65.6	63.2	68	65	65	70

※10

全国学調の正答率に低下はない

岩見沢市の導入のねらい

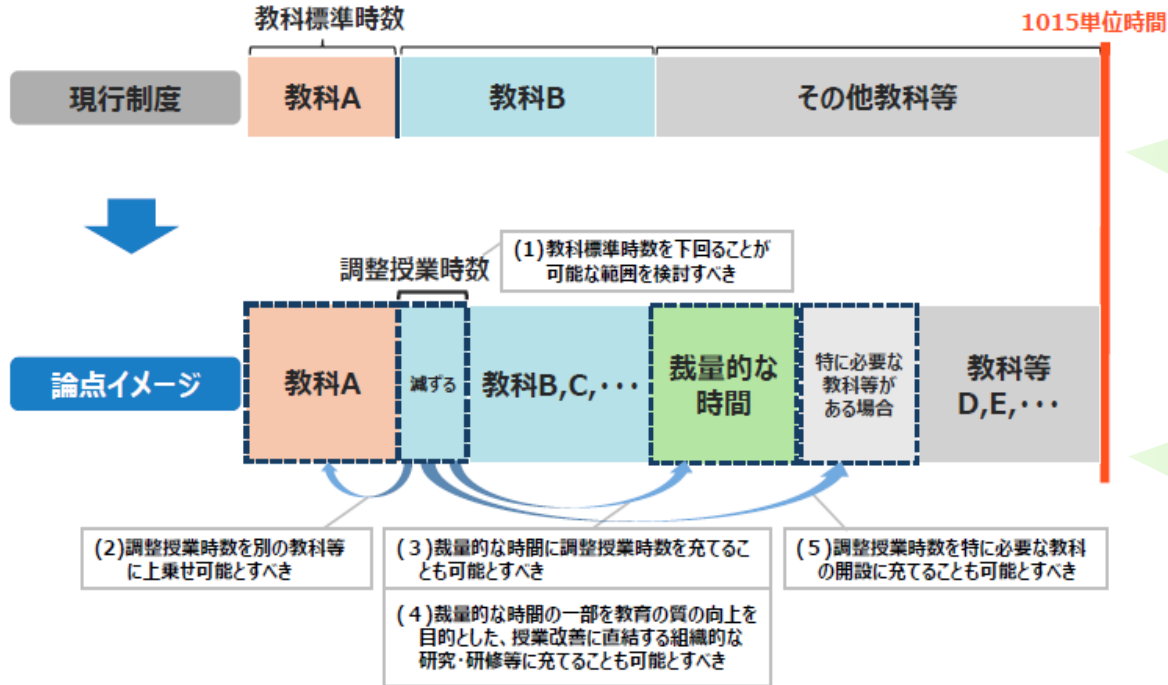
学校教育目標の実現に向けて、子どもの実態を踏まえ、教育課程を自分事として編成し、子どもの資質・能力を伸ばす時間への活用する

自校の教職員との合意形成・エビデンスに基づくアセスメントが不可欠



Project 3 授業時数特例校制度

次期学習指導要領に向け調整授業時数制度の検討



多様な個性や特性、背景を有する子供たちを包摂する柔軟な教育課程編成を促進するため、児童生徒や地域の実態を踏まえて、必要に応じて以下のような取組の一部又は全部の実施を可能とする方向で検討※11

「授業時数特例校制度」については、各教科等の内容を全て取り扱った上で、一定の範囲で時数の調整を認めるものであり、調整授業時数制度の範囲内であることから、同制度に統合していくことが適当ではないか※11

※11

岩見沢市の導入のねらい

次期学習指導要領の改訂に向けて検討されている「調整授業時数制度」へのスムーズな移行ができるようにする

自校の教職員との合意形成・エビデンスに基づくアセスメントが不可欠



Project 4 コミュニティ・エリア構想

子どもたちが健やかに成長し、豊かな人間性を育むためには、小中の連携強化とともに、学校だけではなく、地域全体で子どもを見守り、支え、育てる体制が不可欠です。

そのため、あらゆる人々が「地域の子どもは地域で育てる」という意識を共有し、それぞれの立場でできる持続可能なことを実践していくことが重要であり、地域の温かいまなざしの中で、安心して成長できる教育環境を、社会総がかりで構築することが大切です。



「学ぶ楽しさ」と「伸びる喜び」を得るためには

地域総がかり子どもを育てることが必要



Project 4 コミュニティ・エリア構想

エリア内における小中の連携強化

中学校で顕在化する問題も、実は小学校から

「ギャップ」という表現が安易に用いられていることで、小6から中1に至る過程に大きな「壁」や「ハードル」が存在し、それが問題を引き起こしているかのようなイメージを抱きがちです。しかし、多くの問題が顕在化するのは中学校段階からだとしても、実は小学校段階から問題が始まっている場合が少なくありません。

小学校からの連続性に着目することで、中学校の問題を解消する

家庭や地域の教育力の低下もあって、小学校が抱える問題は従来と比べものにならないほど増えてきたと言えるでしょう。その結果、小学校段階で予兆が見えていたり顕在化し始めていたりする問題であっても、対応できなかつたり解決できなかつたりという「積み残し」や「先送り」が増えていきます。

一方、中学校でも、そうした小学校の状況を十分に把握しないまま、あたかも中1をスタートラインにできるかのような昔のイメージを脱し切れていない学校が多いのではないのでしょうか。 中学校区単位で連携を進めていかなければ、中学校の課題が解消することはありません。

小中連携はもとより、校区内の小中連携も含めて不登校やいじめという共通の課題に取り組むことで、成果をあげている中学校区が現れています。「ギャップを作りだしているのも、それを埋めることができるのも教職員」と言えます。

◆安易な表現に振り回されることなく、自分の中学校区が抱える地域・家庭・児童生徒の課題を見据え、教師や学校が取り組むべき課題を見極める。 ※12

このような状況だからこそ

【岩見沢市教育大綱】 教育は、未来を生きる人を育てることを通じて、未来を創造する営みであり、人を幸せにするものです。一人ひとりの持っている可能性を広げ、伸ばし、より豊かな人生を過ごせるように導きます。教育によって次世代を担う人づくりがすすめられ、学びを通して人がつながり、岩見沢のまちづくりがもっと魅力的になります。豊かな心や健やかな体を育む、教育、文化、芸術、スポーツのまちづくりに向けて温かく、心のこもった教育を推進します。

岩見沢市【小中一貫教育】基本方針

I 【小中一貫教育】をめざす背景

1 現状と課題

- 岩見沢市の児童生徒の「自己肯定感」について
- 「将来の夢や希望」について
- 不登校児童生徒・いじめについて

2 これまでの取組

- 市全校における「教えて考えさせる」授業の統一とピア・サポートによる児童生徒を徹底的に大切にす取組
- コミュニティ・エリア構想による学校・家庭・地域が一体となった教育
- 岩見沢市小・中学校の適正配置に関する基本方針

3 期待される成果

- 学力の向上
- 中1ギャップの未然防止
- 特別支援教育の充実
- 家庭・地域との連携強化

II 岩見沢市における【小中一貫教育】

1 岩見沢市における「小中一貫教育」を進める上での4つの方針

- ①各コミュニティ・エリアでの「めざす子ども像」の共有
各コミュニティ・エリアの「目指す子ども像」を明確にし、小・中学校の教職員が共通認識を持ちながら、それぞれの地区の特色を生かした教育活動を推進します。
- ②義務教育9年間の「学び」の充実
義務教育での子どもたちの「育ち」や「学び」を一時的に捉え、9年間を見通す系統性・連続性に配慮した教育課程を編成します。
- ③小中一貫教育推進のための組織体制の確立
各コミュニティ・エリアにおいて、小中一貫教育推進のための組織体制を確立し、教育課程や教育内容の検討・実践を行います。
- ④地域に根ざした小中一貫教育の推進
学校運営協議会を柱として、学校・家庭・地域が一体となって、地域を愛し、地域に誇りを持つ子どもたちの健全育成を進めます。

(2) 施設形態

設置形態	義務教育学校	併設型小中一貫型小学校・中学校
形態	一体型 隣接型 分離型	一体型 隣接型 分離型

内 義務教育の小中学校9年間を一貫した教育課程と学校環境のもとで実施するもの。 児童生徒、教員の交流や共同の活動を通して小中学校間の円滑な接続を図るもの。

III 今後の推進体制について

- (1) 岩見沢市小中一貫教育推進協議会
教育委員会事務局及び学校代表者等で構成
- (2) 各コミュニティ・エリア及び各学校における推進組織の設置
既存の組織を生かし
①各学校は校長を長とする小中一貫教育を推進する組織を設置する。
②各学校は各コミュニティ・エリアの窓口となる小中一貫教育の担当者置く。
③各コミュニティ・エリア内では具体的な取組の協議・調整を行う。
④各コミュニティ・エリアの推進会議においてはエリア内の校長のうち1名が長となり会議を統括する。
⑤各コミュニティ・エリアでは体制や運営について創意工夫して行う。

4 今後のスケジュール

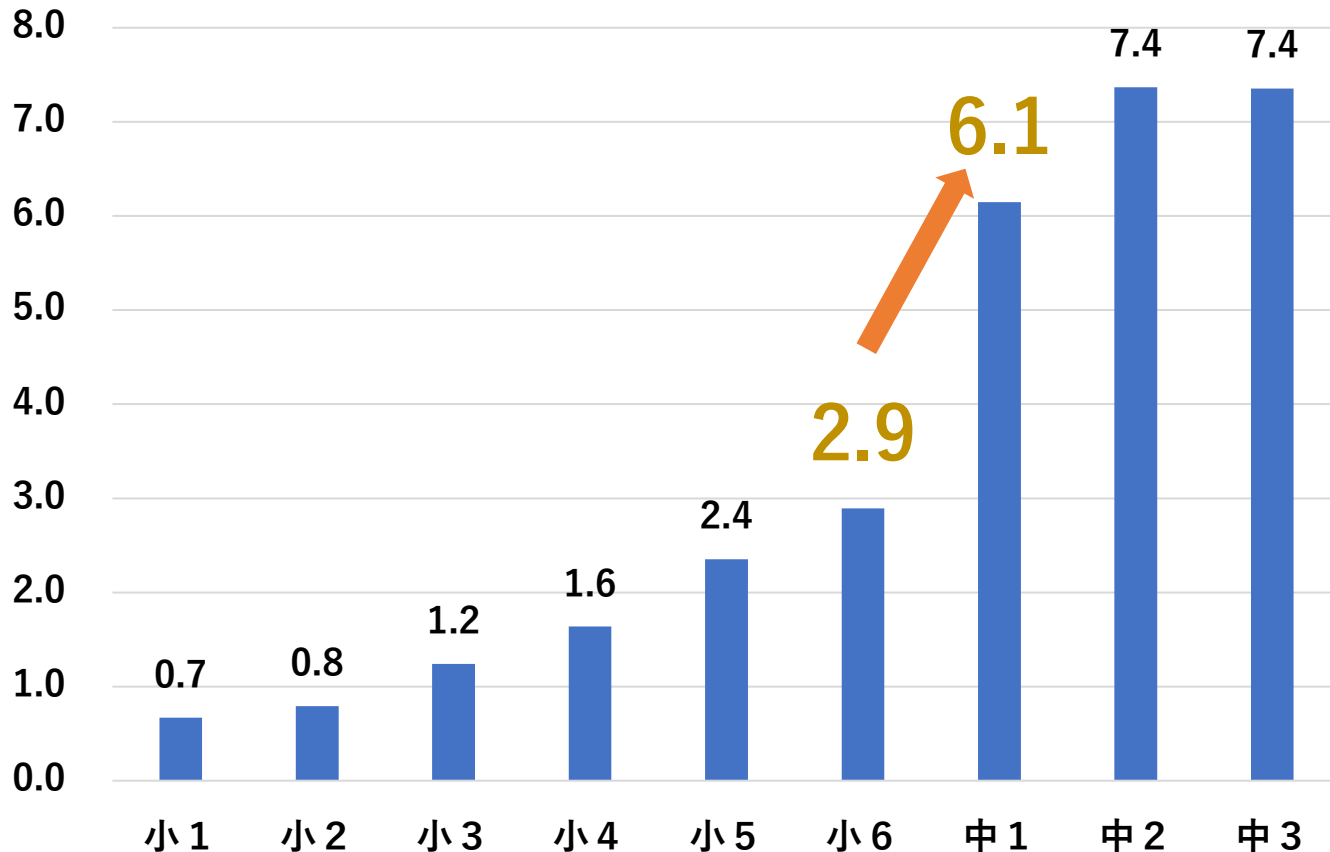
校種	小学校課程						中学校課程		
	学級担任制						教科担任制		
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年
区分	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
教育課程編成上のとらえ方	基礎・基本の定着						基礎・基本の徹底		実践力の伸長
	9年間一貫した系統性・連続性に配慮した教育活動								



Project 4 コミュニティ・エリア構想

エリア内における小中の連携強化

岩見沢市における学年別不登校児童生徒数の割合※14



このような状況だからこそ

- ・ 校種間の段差を低くする
環境の変化への適応
不安の軽減
- ・ 9年間を見据えたカリキュラム
学びの連続性の確保
学習の重複の解消
- ・ 教職員間の相互理解の促進
情報及び指導方法の共有
児童生徒理解

※14 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査（文科省）における、令和3年度から令和6年度の平均より算出



Project 4 コミュニティ・エリア構想

エリア内における小中の連携強化

連携強化の一例

- ・ 小中合同の会議の定期的開催
- ・ 校務分掌名の統一
- ・ PTA役員の本一化
- ・ 乗り入れ授業
- ・ 児童会生徒合同企画
- ・ 学校行事の合同開催
- ・ 日課の統一
- ・ 教職員の顔写真の掲示
- ・ 教材や備品の共有
- ・ 兼務発令
- ・ 合同部活動
- ・ 合同授業
- ・ 校舎見学
- ・ クラウドでの情報共有
- ・ 校内研修の統一 など

各学校・各校区のイメージキャラクター等（令和6年7月にご提供いただいたものを掲載）



東光中



光陵中



くりさわ学舎



北真小



清園中学校区



北村小中学校



幌向小



中央小



第二小



明成中学校区

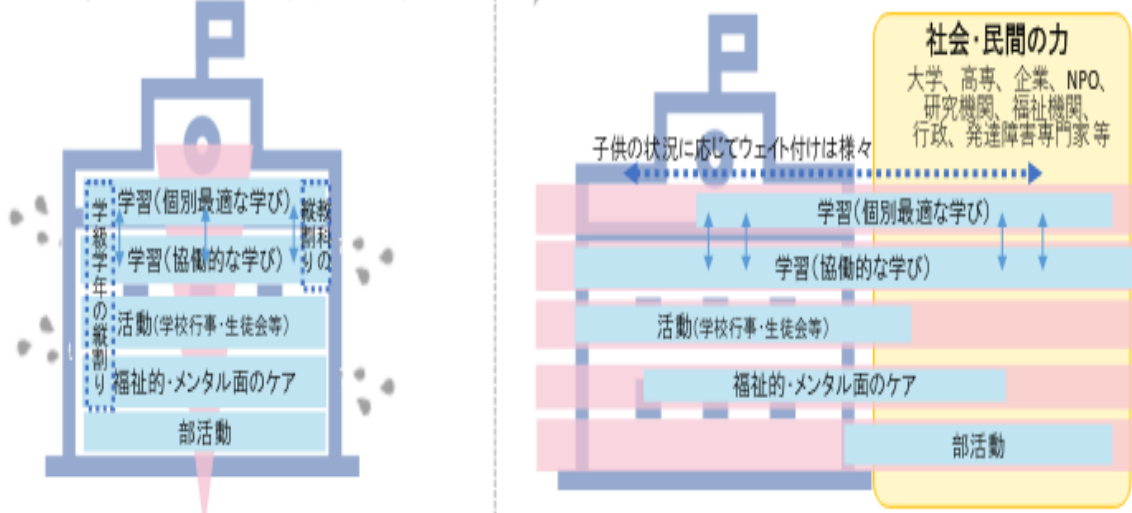


Project 4 コミュニティ・エリア構想

社会総がかりで育てる

内閣府

一つの学校がすべての分野・機能を担う状態 → 分野や機能ごとにレイヤー構造、様々なリソースを活用



こども家庭庁



岩見沢市の導入のねらい

※15

※16

学校だけではなく、地域総がかりで子どもを育てることを前提とし、学校運営に教職員と同じ目線での熟議し、持続可能な充実した教育環境の確立すること

「よい地域」には「よい学校」があり「よい学校」をつくることで「よい地域」が形成される



Project 4 コミュニティ・エリア構想

社会総がかりで育てる

地域とともに歩む学校づくり ⇔ 学校改革

学校を「上から与えられたもの」から
みんなで創っていくもの」への転換



熟議



代表者会議

学校を核とした地域づくり ⇔ 地域共同体の再構築

地域住民が主体的に子どもの教育に関わることで
相互関係を構築していく地域コミュニティの創生



「よい地域」には「よい学校」があり「よい学校」をつくることで「よい地域」が形成される



Project 4 コミュニティ・エリア構想

社会総がかりで育てる

地域には応援団がたくさんいる

ご支援いただいた取組の一例

提供：学生会用重機、のぼり、雑巾寄贈、打ち上げ花火、運営費、学校図書購入費など

授業：薬物乱用防止教室、キャリア教育、情報モラル教室、似顔絵教室、生け花教室、認知症教室、租税教室、サッカー教室、手話教室、野球教室、茶道教室、職業講話、読み聞かせ、ふるさと学習、提灯づくりなど

支援：校区祭り、記念植樹、田植え体験、稲作体験、駐車場のライン引き、スロープの修繕、グラウンドの雪割、放課後学習、スキー用築山づくり、グラウンド整備、草刈り、防災訓練、防犯パトロール、物置の設置、木の伐採、幅跳びの砂場の枠の修繕など



Project 1

校内研修の充実

- ・授業の質的転換
- ・学ぶ楽しさを実感する授業

Project 3

授業時数特例校制度

- ・教育課程の裁量権(カリキュラムマネジメント)
- ・子どもの資質・能力を伸ばす時間の充実

2年間で子どもの学びを本気で変える

Project 2

岩見沢型ピア・サポート

- ・子どもが安心して学ぶことができる学習集団づくり
- ・MLAの活動を学習活動に取り入れていく

Project 4

コミュニティ・エリア構想

- ・エリア内における小中の連携強化
- ・学校だけではなく、社会総がかりで子どもを育てる
- ・地域との結びつきの強化